

1)動静概念と規則性

1-1 動的適正像(活動法則性)

過去と現在と未来の時間軸と動的因果性の観点が出現する。現在は過去の結果となって現れる。過去の因果性や規則性を辿り、問題や好感の原因を掴み、現在に至る経過や経路の認識を整理し、良い法則性等という原理の確信性や肯定感を抱き自信等と働く。そして、「明日や一月、一年、十年、**100**年、永遠性」等という未来へ視線を起こし目標や目的の観念を抱いて実際の皮膚感覚の実感を得られるように個々の局面に対面し、短期周期や中期や長期の連なる大局観や長期性の体系となり未来像の形成と実現へ力が投じられる。「個々の現象と蓄積、正負の体験、改善の意欲、真理の探究心、原理や基準の導出、抽象原理の形成、個別現象への適用、根源性や根幹性の深まり、全体観の更新、特定観の配置、個別現象の形成、」等という活動の習慣を掴み人間に変わりづらい動静の適正と活動法則性の集約などとなり長期的な性質に対する不動的な適正を求め遂げる心身と観念の相関という観念の導出と稼働が図られる。「個別基準、共通性の基準、普遍的不変性の基準」等という各基準と相関の体系観が作られる。精神性の良質を動力基盤性に宿し身体性と観念性の相関性を起こし持続的な反復性の思考と行為の習慣性を生み、変わらぬ人間像となって未来像の中心的な様子を表し発想や算式の適正を引き出し投じる過去と現在と未来の相関性に及ぶ。良い習慣という認識に及び、健全な精神性の稼働する状態の存続において良好な力と創造性の産出と制御を齎せる。習慣や規則性が歪化し改善意欲や真理の探究等という発想や向上心が減退し物質的満足と執着が強まり、固定的基準と排他的な内外性に陥り、歪んだ発想や手法を常態化して自存性を求める不健全像が出現する。慢性化した犯罪性の対象と陥り外界への不良を広げる。とりわけ空間の長期インフラ等という対象性にあっては大きな力や影響が負の連鎖性を拡大させる。自己の主要な関心と生産の絞り込んだ規定を出現させ内外へ誤解の広がらぬ予めの尺度を要する等という態度をもって無理のない長きに及ぶ長期性の相関が産み出される。物質依存の感覚が強まり金や権力で何でも支配する発想と態度が強まると自己規定の精査等という習慣を喪失し場当たり利己性の発想と手法の粗雑な生を出現させる。肥満的な傲慢

性の悪影響が広がる。生身の創造に重心が取られず二次三次的な基準と稼働の相対性が進み根源性や根幹性の意識や観点が萎んだ全体観と特定観を生む活動法則に陥り心身と観念の相関に歪みが深まり広がる。自己と外界を含む領域観や世界観の歪性を招き特定現象の歪性となって人間性や主体や領域の性質が顕在化する。「局所現象、構造的反復性、根源や根幹の性質」という観点と相関の原理という基準が引き出される。

1-2 静的適正像（土台性と全体性）

健全な動的主体性と寡占的構造の歪性を招く傾向則の認識と改善の観点が形成される。健全な精神性の変わらぬ存続を遂げる具象的な施策となって自由の概念や自由貿易や自由競争等という概念の形成と稼働を求める根本的な因果と掴み出される。土台的概念の歪性の基の自由に陥ると暴力的な自由の悪性が拡大する。動的適正を中心的な観点に配し浮かべる人間像が形成される。これに対し静的体系の適正を問う観点と精査の文脈が出現する。広く大きな対象に対面しあるべきを問い作る発想と創造を習慣とする個性が形成される。全体の様子を俯瞰的に眺め直接間接の因果性が斯様にあるか、あるべきかを問い作るマクロ政策等といった創造力が出現する。全体を良く見渡し「これがこうなるとこうなるな」という知見が備わり対象の制御を生む。こうした知見の保有から自己の有用性の認識と優越性の意識を生む傾向が映る。自己は有能で偉いという自意識が増し他は劣る等という精神を強めると人間の根源や根幹の悪い特定操作に陥り歪な全体を招く。根源や根幹を問い根の健全性の基に全体観を導出し特定操作を図る根幹と産出性(部分と全体)にあって良好な生態の大局と永続の軌道が作られる。根源や根幹を喪失した物質的短変数の量的基調の強まる全体観に陥ると歪な特定現象を出現させる。哲学文化の問いと探求と実践の創造が存続し精神と身体と観念の有機的一巡性の習慣を持続する人間像を根幹に起こし生滅不可分の感性が残り自他との良好な生の導出へ感性が向い一過的略奪の強まらぬ再生産と成長の発想を動力源にした根と幹を有し全体と特定の構図と中身を形成する。根の感性や精神が歪化すると幹と産出の在り方に表出し歪んだ自他との相関を抱き作る力が増進される。略奪や詐欺や盗みの性格を強めた創造と習慣による感性と精神が作られる。根本的因果と分析や見解が土台性を組み普遍的不変の基準像と定まり狭義の哲学文化観として安定した価値の不動性を備え、時々環境に対面し観測と評価と予測、適正策の導出と稼働と検証と改善の回る主体と生態の体系を遂げ

る。単純物理の変化に偏り力づくで外界を支配し自存願望を強める歪な根の形成による全体軌道を作ると精神と身体と観念の相関による体形や体系の歪性を産み特定観に反映される。精神性の崩れたマクロ政策や全体主義なる言葉や概念の適用が起こる。不快や否定の心象の増す評価と未来予測が出現する。根源や根幹の適正を求め長きに渡る良質の生態を作る力が投じられる。

1-3 動静概念と規則性

狭義の哲学文化という領域における主要な関心と探求が存続し基礎土台観の適正の基に教育金融、政治行政、産業経済に回る社会の中大局観を起し安定した概念構成を遂げ対象の選定と観測と評価予測、方法の回る習慣と持続のマクロ政策を稼働させる。総論と各論から全体や体系を引き出す創造について根源や根幹という基礎と基軸の適正を土台性の原理に整え部分と全体を律する制御と稼働の習慣と周期を図り健全な表現や創造の産出性に至る。基礎土台性の弱まる総論に偏した精神が進むと歪な体型の主体と生態の軌道を増す。歪な管理志向や優越性の意識を高めた搾取や略奪を常態する悪性が発生する。妙に外界を見下し一方向の要望を強め物質依存の激しい手法を持って他存の弱まる自存を強め画一と短変数の算式と短期的な最良的解を求める性格に外れる。生態の根源や根幹の悪性による全体の支配願望を高める態度へ対し適正な基準の導出と観測と評価に回る基軸的秩序の盤石を図る創造が産まれる。

静的 動的	生滅不可分
抽象、準抽象、具象性	動静 最良的生の導出

静的 動的			狭義の哲学文化
			(根源性) 負の出現・両面の因果・生の増進性
			(根幹性) 精神性と身体性と観念性と習慣、 立案と実施と検証、入力変換産出と循環、
対象性	抽象	教育 芸術	法規や制度、 言葉や概念、
		政治 行政	国家、国際社会、 人間と社会性と自然観と生態系、
部分全体	準 抽象	産業 経済 金融	産業、産業構造、都市と地方、 実物と貨幣、
	具象	需給	個々人、家族、事業体、

動静の適正と習慣となって、良好な精神性の稼働と存続を求める根源的欲求の認識と稼働へ至る。「精神と身体と観念と相関と習慣」の観点を導出し適正を問い健全な土台性の上に対象範囲と適用を図り力に相応する精神の均衡と健全な成長軌道が産まれる。誰もに通じる具象的な概念に精査し主体性像を簡潔に集約し自他との良性を遂げる方法と働く。根と幹の歪な専門や特定技術というアンバランスに及ばぬ基軸の良質に領域化の重要点が産まれる。全体最良性の発想は自然な精神性から出現する。物質的因果で支配される感覚が強まると歪な全体観を招き精神不良の生態を広げる。無思考の習慣が強まり思想や世界観、基準や原理の導出と稼働の習慣が萎む。頭過多と身体性過多の両極を見据え精神や感性の検証を重ね適正を作る法則が出現する。